

公開災害救急:トリアージ訓練報告

副院長（防災委員長） 岡住 慎一



過日令和元年9月7日、病院防災訓練を実施しました。当院の防災訓練は、年2回、院内火災発生時対応と、地域災害時対応をそれぞれ目的として行っています。今回の訓練は後者で、「トリアージ訓練」と呼んでいます。トリアージとは、発災時の多数かつ混乱状態が予想される救急搬送患者や独歩来院者をその重症度別に赤（重症：要緊急手術等）、黄（中等症：要入院等）、緑（軽症：応急処置帰宅可能）に判別して、適切な処置を効率よく行う訓練です。約30名の模擬患者を診察により、赤、黄、緑のareaに分けて収容し、さらに検査（採血、レントゲン、超音波）によって診断して、緊急手術、入院病棟搬送、他施設移送手配、投薬等の一連の流れを行います。当院では、例年実施してきたこの訓練を、平成29年の災害拠点病院の指定後から佐倉市の関連機関に案内し、公開・合同で行っており、今回は、地域医療機関、佐倉消防、印旛健康福祉センターから計31名の参加が得られました。また、同日9月7日は、首都直下型地震を想定した内閣主催「全国大規模地震時医療活動訓練」にあたっており、千葉県では千葉県北西部を震源とする震度6強の地震を想定して、①地域医療活動訓練 ②43道府県DMATの参集、活動訓練 ③広域医療搬送訓練、が実施されており、当院の訓練もこれに連動した計画を立てて行いました。断水への対応、他施設への患者移送などのシミュレーションも行い、重層的多面的な訓練となりました。場所は、旧看護学校の1・2階を使用し、2階に災害対策本部を設置し、派遣を受けた北海道・山口の日本DMATの方々から指導をいただきつつ、状況把握、連携対応、入退院の管理等を行いました。外来患者のトリアージ班は1階で活動し、その後搬送指揮班が、検査ブース（1階）、病棟（2階）への移動を担当しました。また、佐倉消防救急隊により日本医大北総病院まで実際に4名の患者搬送訓練がなされました。早朝から準備して14時から開始し15時に終了となりました。

講評として、各班の代表ならびに参加いただいた行政・連携医療機関の方々、日本DMATの方々からお言葉をいただきました。今回、発災時の院内対応、佐倉地域・全国連携を模擬体験できたとともに、地域の顔の見える連携構築がさらに深まり、非常に有意義な訓練となりました。今回の総括を年度末に諸機関とともに予定しております「救命と安全の連鎖研究会」にて報告し、発災時の佐倉市連携の意識共有を進めたいと考えております。

外来受診のご案内

- 開院時間 8:10
- 受付時間 初診 8:30~11:00 再診 8:30~11:00
※一部診療科では午後の受付となる場合があります
- 休診日 日曜日・祝日・第3土曜／創立記念日（6月10日）
年末年始（12月29日～1月3日）
- 代表電話番号 043-462-8811
予約変更専用 043-462-0489（平日14時～16時）
- 健康保険証（原本）、その他の公費負担受給者証（原本）を必ず持参下さい。
- 各科外来担当医はホームページ
<http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp> をご覧ください。
- 当院は厚生労働省指定の基幹型臨床研修病院・大学付属病院です。臨床研修医および医学生・薬学生・看護学生のほか、医療関係各種学生・研修生の教育実習・研修が行なわれております。実習・研修は指導医・指導薬剤師・指導看護師や各職種指導者の監督のもとで行なわれますので、ご協力を願い申し上げます。

編集後記

来年は待ちに待った東京でのオリンピックが開催されますが、皆さまはどのように観戦されますか。4年に1回のオリンピック、現地まで足を運んで応援したい気持ちもありますが、私は家でゆっくりとテレビの前で応援することを選択しました。普段は夜中に中継されることが多いオリンピックですが、リアルタイムで応援をしたいと今から楽しみにしています。（総務課 福田）



編集・発行：東邦大学医療センター佐倉病院 広報委員会
〒285-8741 佐倉市下志津564-1 TEL.043-462-8811（代表）
発行月：2019年10月【年4回（1・4・7・10月）発行】
URL：<http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp>

SAKURAdayori

東邦大学医療センター
佐倉病院の基本理念

- 質の高い医療を安全に提供する病院
- 地域に貢献する病院
- 人間愛を共有する病院
- 楽しく明るくチャレンジする病院
- 良き医療人を育成する病院

患者の権利

- 質の高い公正な医療が受けられます
- 個人の尊厳が守られます
- 個人のプライバシーが保障されます
- 必要な医療情報の説明が受けられます
- セカンドオピニオンが保障されています
- 医療行為について自己選択ができます

専門性の高い看護師の育成と体制整備



副院長・看護部長 高橋 初枝

この度の台風15号の影響により甚大な被害を受けられた皆様に心よりお見舞い申し上げます。皆様の安全と被災地の一日も早い復旧、復興を心よりお祈り申し上げます。

当院では、訓練を受けた看護師と医師、メディカルスタッフ、事務などより構成される災害派遣医療チームと災害支援の研修を修了した看護師を派遣し、微力ながら災害支援のための活動を行いました。これは、いつ発生するか分からない災害に備えて専門的な研修や訓練を修了した看護師を育成していた成果の一つと考えております。

時代は変化し療養の場が病院にとどまらず暮らしの場に移行することに伴い、医療的な判断や実施が看護師にも求められるようになりました。そこで、特定行為が実践できる看護師の育成を進めています。2015年10月1日に施行された「特定行為に係る看護師の研修制度」は、医療の高度化・複雑化が進む中で、質が高く安全な医療を提供するチーム医療推進の一環として開始されました。医師の判断を待たずに、手順書（医師による指示として作成する文書）により、特定行為を行う看護師を養成することを目的としています。特定行為は侵襲性が高い行為であり、判断と技術において難易度が高いため患者さ

んの安全を担保することが必要不可欠となります。そこで研修の中で、実践的な理解力、思考力及び判断力、高度かつ専門的な知識及び技能を習得します。

「特定行為に係る看護師の研修制度」はすでに開始されて4年が経過し、研修修了者がいろいろな分野で活動しています。2018年9月末時点では全国で1205名が研修を修了したと報告されています。

急性期病院でも患者さんの状態を見極めて医師が手術や検査で手がはなせない時でもタイムリーな特定行為を提供するなどの活躍が期待できます。患者により、患者の変化に応じた看護ケアを提供する立場にある看護師が、患者さんに適したタイミングで特定行為を行う事で、回復促進・重症化予防など医療・生活の質の向上に貢献できると考えています。現在、創傷治癒を促進する関連の特定行為研修を修了した看護師が活動を開始しています。また、血糖コントロールのため薬剤投与に関して研修中の看護師もおります。

研修に送り出した看護師が活躍できる環境を整えながら、病院だけでなく地域に密着した場所でも活躍し「治療」と「生活」の両面から患者を支援できることを目指したいと思います。

東邦大学医療センター佐倉病院公開講座 地域で考えるケアと治療 「お酒とからだの付き合い方~予防とケア Good Alcohol, Bad Alcohol」

脳神経内科 榊原 隆次



お酒を少量たしなむことは健康に良いとも言われます。一方お酒の量が相応をこえますと、いろいろな合併症が起きてきます。どのようにお酒と付き合うと良いのでしょうか？この点について、佐倉病院として前回2016年に続いて第2回、お酒をテーマにした公開講座が、2019年7月13日、東棟7階の病院講堂にて開催され、病棟入院患者さんの参加を含め、57名と多数のご参加を頂きました。

榊原の総合司会の下、最初に、代謝内科の今村医師から、実験の結果を含めて、「お酒とポリフェノール」のお話がありました。ワインに多く含まれるポリフェノールが動脈硬化を予防する可能性があること、そのチェックにCAVI(キャビと読みます)検査が良いとのこと。続いて、腎臓内科の大橋先生から、お酒と腎臓のお話がありました。飲酒した量の1.1倍が排尿されるため、飲酒は脱水になりやすいこと、プリン体は結石の原因になるとのこと。続いて、脳神経内科の榊原から、「お酒とのうしんけい」について、お酒に酔うとはどういうことなのか(広い意味ではしんけいのまひ)、その病気の中にはアルコール認知症があり、Jカーブとして、少量までは良いが、1日摂取量がエタノール換算40g超を長期間摂取すると、認知症をきたすということが示されました。次に、循環器内科の野呂医師から、アルコール心筋症他のお話がされました。続いて、鈴木精神社会福祉士から、お酒の病と医療制度について説明がありました。これだけでも盛り沢山の内容でしたが、短い休憩をはさんで、消化器内科の高田医師か



ら、「お酒とかんぞう」のお話がありました。「休肝日」という言葉で広く知られているように、お酒を飲みすぎると、肝臓を悪くしてしまいます。続いて、脳神経外科の小此木医師から、「お酒とけが」について、慢性硬膜下血腫を含めたお話がありました。年配の方がお酒を飲んで転倒してしまうと、後から歩行障害や認知症が出ることがあるとのこと、注意しないといけませんね。続いて、精神科メンタルヘルスクリニックの桂川医師から、「お酒と依存」のお話があり、続いて、尾形臨床心理士、飯村認知症専門看護師から、患者さんの心、適切な対応についての心温まるお話を頂きました。佐倉病院「アルコール対応チーム」全10名によるトータルなケアと、病院での現場のお話は、参加された皆様方には大いにご参考になったのではないかでしょうか。

当日のスライドとアンケートの集計結果は、佐倉病院脳神経内科のホームページから見ることができますので、ぜひご覧ください。今回の公開講座の内容は認知症です。これもまた、興味深い内容で、最近話題の「物忘れ」について、病気と最新の治療・ケアについて、勉強するきっかけになるのではないかでしょうか。次回もぜひご参加頂けますと幸いです。



2019年 公開講座のお知らせ（入場無料・申込不要・200席）

開催予定日	講演予定テーマ	担当
11月9日(土) 13:00～16:00	〈地域で考えるケアと治療〉 認知症とともに歩む“診断と治療”	〈脳神経内科・メンタルヘルスクリニック・脳神経外科・リハビリテーション部・ソーシャルワーカー・看護部 他〉
12月7日(土) 13:00～15:00	骨粗鬆症について	〈骨粗鬆症ワーキンググループ〉 中川 晃一 他
1月25日(土) 13:00～15:00	うつ病と地域生活（仮）	〈メンタルヘルスクリニック〉 桂川 修一 他
2月	休会	

ご参加お待ち致しております

身近な疾患や症状をテーマにした公開講座を開催しております。多くの市民・医療関係者の方々にご出席いただき、病気の予防や早期発見、地域医療の発展に役立てていただければと存じます。

講演テーマなどの詳細につきましては、院内掲示およびホームページでも案内しております。ご不明な点や講演テーマのご要望などございましたら、当院総務課にご連絡下さい。

小児科学講座教授就任のご挨拶



小児科 金村 英秋



この度、8月1日付けで小児科学講座教授に就任いたしました金村英秋と申します。前任の山梨大学小児科では、主にてんかんを中心とした小児神経疾患の診療・研究に従事し、とくに、てんかんをもつお子さんのQOL(生活の質)の向上を活動目標に掲げてま

いました。てんかん発作をはじめとした症状や、診断や治療経過の確認に重要な脳波所見がQOLに与える影響について様々な知見を集め、それを日々の診療に繋げることで、てんかんをもつお子さんのQOL向上に取り組んでまいりました。

神経疾患は小児科の中でも患者数が非常に多く、また小児の最大の特徴であります「発達」と正面から向き合う領域でもあるため、全ての小児疾患において関わりが生じる重要な分野であると言えます。当院小児科はてんかん、神経発達症などの小児神経疾患症例が非常に多く、また専門医研修施設に複数の神経領域学会から認定されるなど、神経

領域について診療体制が充実していることがその特徴として挙げられます。今後もこれら当科の強みを維持し、さらに高めていくことで、神経疾患をもつお子さんの健康増進に少しでも寄与していきたいと考えています。

一方で、当科はスタッフ全員が総合小児科医として小児疾患全般の診療に取り組んでおります。Common disease(普通の病気)から専門的知識・経験が求められる疾患まで、幅広い小児疾患の診療に当科スタッフと協力しながら今後も全力で取り組むことで、地域のお子さんの健やかな成長を支えていきたいと考えています。

さらに、日常診療と合わせて学術活動も活発に行うとともに、日々進歩している治療について的確に情報をつかみ、診療に取り入れていくことで、地域のニーズにお応えできる最新かつ最善の医療をスタッフ一同で今後も提供してまいります。

お子さんの健康面でご心配なことがありましたら、お気軽にお問合せいただければ幸いでございます。どうぞよろしくお願いいたします。

がん放射線療法看護認定看護師の紹介

がん患者サポート
がん放射線療法看護 認定看護師 藤崎 みず穂

対処方法などについて解りやすく説明し、少しでも不安が軽減した状態で放射線治療を受けてもらえるように支援したいと考えています。

放射線治療には医師・医学物理士・診療放射線技師・クラーク・看護師によるチーム医療が欠かせません。当院の放射線治療室はチームワークが良いと評判です。各種認定資格を持った専任スタッフと連携を図り、患者さんやご家族の気持ちによりそえる優しい放射線治療室を目指し、日々活動していきたいと思います。



放射線治療部門スタッフ(筆者: 後列左から3番目)